



漫画家・アシさんに 聞いてみた



漫画業界の気になるそこん
とこ

著者

現役大学生 ヒカル

著者の挨拶

(著者からのご挨拶)

こんにちは。恐らく多くの皆様、初めまして！になりますね。

ヒカルと申します。関西の大学に通ってしまして、現在は3回生です（就活？なんのことやら……）。

まずはこの本を手にとってください、誠にありがとうございます。本当に……、本当に。

僕のプロフィールについては、あとがきに書きますので、よろしければご確認ください。連絡先等もお載せいたします。

(本書の内容)

非常にシンプルです。

漫画家・アシスタントさん達にインタビューして「漫画界の気になるところ」を聞いてみようというものです。

ねっ、分かりやすいコンセプトでしょ（笑）。

読んで欲しい読者層としては漫画に興味ある人なら誰でも。

漫画業界について多少なり興味ある人が読んでくれると嬉しい。

そういう人が軽い気持ちで読める本を作りたかった。

そしたら今の時代、電子書籍っていう凄く便利なツールがあるじゃないですか！

そういう人向けのインタビュー内容になっています。どんな感じかは中身を見たら分かります。

この本は無料だから、気兼ねなくパラパラ見てください（笑）

本書は僕の連載企画の第1弾であって、収支は考えずに制作した。だから無料です。

とにかく多くの人に読んで欲しいから、値段はとにかく安く。今回は記念すべき第1弾なので無料だ。

でも内容には自信はあります。

インタビューをお受けして下さった方々は皆、本当に素晴らしい方でした。

(なんでこの本の執筆に至ったのか)

僕は無類の漫画好きでして……中学生くらいから「漫画関係の記事書きたい」と常々考えていたんですね。

けれど、受験やら部活やらで、なかなか記事を書く時間に恵まれず、気がつけばもう20歳になっていました（笑）。今は大学休学中（家庭の事情もありますが）で、幸い時間がある。これは書くしかない。そう思い、今回のインタビュー記事執筆にあたりました。

今回が記事執筆第1弾になります。そう……最初の1発目なので、自分の文章の出来が正直なところ心配だ（笑）インタビュー記事だから、基本的には録音内容を文字に変換する作業があるから、ここは僕の力量が試される。うう、心配だ。でも、そんなことを気にしていたら始められない。まず一度、読んでみて欲しい。それで伝わるものがあるかもしれない。

（では、そろそろインタビュー内容へ）

今回はアシスタントの方2名・漫画家さん1名にインタビューしてきました（詳しくはインタビュー本文にて紹介）。

皆さん、本当に気さくな方で、僕のたどたどしいインタビューにも優しく応じてくれました。誠にありがとうございます。そして、ひょんなことからインタビューに同席してくれた漫画家志望の学生もありがとう。

僕とそう年も変わらない同世代の漫画家たちからは「俺も負けちゃいけない！」っていう闘争心ももらった。

うん。では早速、インタビュー（本文）内容に移りましょう。
僕のお話はまた「あとがき」の章で語るとします。

では漫画家・アシさんインタビュースタートです！

2014年某日 東京から帰るガラガラの深夜バス車内にて執筆

インタビュー開始

2014年、某日.....東京は池袋にて、漫画家・アシスタントさん3名と専門学校に通う漫画家のたまごたち9名を招いてのインタビューが始まった。

～今回のインタビュー登場人物紹介～

佐藤敦弘さん

(経歴)

少年ジャンプ系列にてアシスタントを続け、早20年の凄腕アシスタントさん！

過去に経験したアシスタント現場は『ROOKIES』『シャーマンキング』『DEATHNOTE』『NARUTO』.....など有名タイトルばかり！また切り絵画家さんとしてもご活躍されている御方！その美しいテクで生み出す背景画は、同席していた漫画家のたまごたちがビビりまくるほどに鮮やか。男性です。

佐藤さんのHP [敦弘 切り絵屋] <http://kirieatsu.blog.fc2.com/> ツイッター@link_papa

ホラー漫画家X子さん

(経歴)

ホラー少女漫画を執筆！ホラー少女漫画を書いているとは思えない、ふわふわオーラの持ち主！その雰囲気にも癒されました（笑）！本インタビューでは知られざる少女漫画の制作現場を語ってくれました！果たして少女漫画の制作現場とは.....!!? 女性です。

とあるアシスタントQさん

(経歴)

匿名希望で参加のQさん。様々な少年漫画の制作現場でアシスタントをしている方。インタビュー中は明るくテンポの良い語り口で、笑いをかささらっていきました！「私、筋肉が大好きなんですよ」←本人談。女性です。

漫画好きな女性は筋肉フェチが多いのかな？

漫画家のたまごたちA～I（9名）

(経歴)

都内の専門学校に通う漫画家のたまごたち。私と同世代の漫画家志望者なので、私自身.....彼らの生態が気になる.....っ！

ヒカル（この記事を書いている当人）

（経歴）

関西の某私立大学に通う3回生。漫画家・アシスタントさん関連の記事を書きたい！……と常日頃、考えており、今回インタビューするに至った。漫画大好きです。男です。

それでは以下、インタビュー（対談形式）内容を記述いたします。

（本文内での略称）

佐藤敦弘→敦弘

X子先生→X子

【基本情報編】

和気あいあいとしたインタビュー室内にて……。

（ヒカル）

皆さん、こんにちは。ではインタビューを開始いたします。

まずは皆さんのアシスタント歴や年齢など基本情報をお聞きしてもよろしいでしょうか？

では、敦弘さんから。よろしくお願いいたします！

終始にこやかな敦弘さんが口を開く。

（敦弘）

僕のアシスタント歴は20年。主にジャンプ系列の作家さんのところで活動しています。

今年の誕生日は2月14日で、39歳になります。そう、バレンタインです（笑）

（一同）

あら////

(敦弘)

で、18歳からアシスタントしていて……『ROOKIES』の1巻から最後までアシスタントしていました。

次に『シャーマンキング』、次に『DEATHNOTE (デスノート)』、今は『NARUTO』のアシスタントを6、7年ほどしています。

感心する一同。

それもそのはず……漫画好きならば読んだことはある名作タイトルの名前がズラズラっと出ればテンションは当然あがる。

(ヒカル)

凄い有名タイトルばかりですね！全部知ってます！（興奮気味）

(敦弘)

で、他にホラー雑誌で連載しつつ、アシスタントを並行して続けていました。今は切り絵画家もしています。

(ヒカル)

ありがとうございます！こんな感じで簡単な自己紹介お願いいたします。では次にX子さん！よろしくをお願いいたします！

おっとりした**THE**・大和撫子なXさんが口を開く。

(X子)

連載前は、女性漫画家さんのところでアシスタント経験があります。

主に仕上げ（トーンやベタ作業）のアシスタントしていました。そのあと自分で漫画描きたいなあと思って、今デビューして4年くらいかな。

(学生B)

……凄いなあ

(X子)

で、コメディ系統の漫画書いていたんですけど……

ホラー少女漫画連載しています。

(ヒカル)

珍しいジャンルですよ。ホラー少女漫画って。

僕、X子さんの漫画でそういうジャンルがあるの初めて知りました。

(X子)

よく皆に言われます (笑)

続いて、こちらも笑顔を絶やさないQさんだ。

(Q)

私は漫画関係の職に就くのが遅くて、今は6年目かな。敦弘さんの20年のあとに6年ですけど (笑)

今は、とりあえず色んなところでアシスタントしています。

(敦弘)

それでも上手いよねー、Qさん。

その後、ちょっとした雑談タイム…… (5分ほど)

互いの自己紹介的なものが始まった。

学生も能動的に敦弘さんたちと話す。

「ああ、いい雰囲気になってきた」

インタビュー現場は非常に和やかな雰囲気であった。

背景のお話し&アシスタントに必要なこと

(背景作業のお話)

(ヒカル)

さて！みなさんの基本情報を聞き出したところで.....次はですね。この漫画のココが凄い！.....っていうのを教えてもらえますでしょうか？

(敦弘)

これは世代によって違うよね。でも.....漫画家の教科書は『AKIRA』だよ！

(一同)

あー！『AKIRA』！

(敦弘)

男性作家さんの職場には100%って言ってもいいくらいあるよ『AKIRA』。
とりあえずビルやらのひびの入り方、岩や波の描き方.....を参考にするとが多い。

(ヒカル)

やはり『AKIRA』は段違いですか？(画力が)

(敦弘)

いや、もう.....凄いですよ。密度が凄いな。あとトーンをあまり使ってないラインだけの描き方をするから、トーン使う作家さんも『AKIRA』を見て、トーンをどこにどう貼ればいいのか.....直しやすい。教科書だよ。

一同、聞き入る.....

(敦弘)

資料にする漫画って、いっぱいあるよね。そう例えば、『ダイの大冒険』の背景、凄いです！

(x子)

あー！確かに凄いです。(漫画家の間では)有名ですよ。
凄く細かいんです。コマの人の動きだとか、色んな角度とか考えてて。

(Q)

私は『デスノート』や『シャーマンキング』などの少年漫画を参考に置いていますよ。

(敦弘)

正直言うと、背景書く時って、トレースだと楽だけどね(笑)
自分で書くとすると、すべて1から考えないといけないし。

(ヒカル)

やっぱり背景を無から生み出すって大変ですよ。

違和感あっても良くないでしょうし。

(敦弘)

すげー大変よ。

(ヒカル)

絵がめっちゃ好きでないとできない芸当ですよ。あと聞いたかったんですけど……。よく漫画の戦闘シーンって荒野とか岩が多いところに行くじゃないですか。そのときって背景は岩ばかりになりますけど、ぶっちゃけ楽ですか？

(敦弘)

戦いになると岩ばかりですよ。だから正直、ちょー楽(笑)

(一同)

爆笑

(ヒカル)

心の声「岩とかだと、やっぱり楽は楽なんだ……っ！」

(敦弘)

いや、勿論最初は大変だけど、どこの現場でも一緒かな。
パターン化すると、そういう背景は描くのは楽になるよ！

(Q)

早くなりますよね(笑)でも能力が向上した結果の楽だから、いいことですよ。

(敦弘)

慣れると資料がいらぬもん。

(X子)

岩とかそうですね。

(敦弘)

新しいステージに物語が行くと、背景資料とか探すんだけどね(笑)
で、皆の絵柄を合わせなくちゃいけない。相談しながら背景を描く。

(ヒカル)

なるほど！

(敦弘)

それがとにかく時間がかかる(笑)
同じ場所で戦ってくれたら、その相談がないから作業は早くなる。

(ヒカル)

言ってしまうえば、ずっと戦闘場所が荒野だったら作業は楽になるんですね（笑）

（敦弘）

そうそう。だから急に物語の場所が変化すると、「大変だー！」ってなるよ。
でも、どこの職場でもそうなるよね？

（Q）

なります、なります。
新しい背景出てくると焦ってきちゃう（笑）

（敦弘）

主人公が戦い終わって、街に帰るのが嫌だもん（笑）
「頼む！ 帰ってくるな！」みたいなことを考えたりはする（笑）

（一同）

爆笑

やっぱり、そういうのってあるんだなあ。面白い

（敦弘）

やっぱり街中を描くのは大変だよ。

（Q）

本当に大変ですよー（笑）
他にも新しい武器のデザインとか考えるのも、丸1日かかっちゃいますもん！

（ヒカル）

皮肉なことに荒野で必殺技を撃ちまくってるのが現場は楽なんですね（笑）

（敦弘）

そうそう、職場は楽にはなる（笑）

（ヒカル）

そこに行くと……少女漫画どうですか？ 少女漫画は戦闘シーンとかないですけど。

（X子）

少女漫画ですか。

（ヒカル）

少女漫画って言うたら、凄くキラキラしたトーンがよく貼ってある印象があります。

(X子)

うん、そうそう！

背景ないときは「トーンちらしとけ！」みたいなこともあるよ（笑）

(一同)

爆笑

(敦弘)

あー、でもなんか分かるなあ（笑）

(ヒカル)

見つめ合う時のキラキラ感ですよ。

(X子)

うん、そうそう（笑）点描とかでブワーッと描いたりします。

女の子は背景よりも雰囲気重視なところがあって、女の子はあまり背景を気にしないのかも。

それよりも気にするのは魅力的な表情だったりするんで。

(Q)

少女漫画家さんのところにアシスタント行ったとき、ベタ入れすぎちゃって。

「それ、ちょっとやめて！」みたいなこと言われたりもしました（笑）

(X子)

あー、ベタ入れすぎるとねえ……（笑）

(Q)

書き込みすぎたら、駄目なケースもありますよね（笑）

あっ、でもね。上手い作家さんの原画とかで直したあととか見ると安心します。

「この人も人間なんだ！直しするんだ！みたいな安心感（笑）」

(敦弘)

あと艶ベタ（髪の毛のツヤを出すベタ作業）は基本、先生がやるところが多いんじゃないかな？

(Q)

少女漫画ではどうですか？

(X子)

少女漫画は、けっこう艶ベタはアシスタントに任せるかも……。

(敦弘)

あっ、そうなんだ。

(ヒカル)

現場によって、そういう違いもあるんですねえ。現場次第なんだなあ。

(学生A)

いや、でも艶ベタ楽しいです（笑）

(X子)

実際、少女漫画って、あんまり背景は書き込まないかもしれないなあ（笑）

(Q)

むしろ書き込んじゃうと、浮いちゃいますもんね。

けど、綺麗にピンツと背景もキャラ絵もちゃんと書き込んでる人は「凄いなあ」ってなります。絵のバランスを取るのが上手いっていうか……（普通、書き込み過ぎると逆に見づらい）。

(X子)

思い返すと……私、少年漫画ばかり読んでたなあ（笑）

(Q)

それと担当してる先生の単行本が増えると、本の直しが増えてきて作業量がヤバいっす（笑）
単行本作業で他の作業もずれ込んだりしますし。今、修羅場っす（笑）

(ヒカル)

僕みたいな漫画素人からすると、単行本作業ってイマイチどんな感じが分からないんですけど
どんなことするんですか？ 大変なんですか、やっぱり。

(Q)

雑誌掲載時の描き忘れとか、コマを足したりとかするんです。ミスがあったりするんで。
キャラの変身後とかは特に！ 顔が違ったりするので。めっちゃ直しますよ！
耳とか細かいとこね。

(ヒカル)

なるほど！

単行本直して、実際の作業があまり想像できないので初めて聞きました。

素人目には「雑誌のときと、ここ違う」……ってなかなか分からないですよ。

(敦弘)

X子さんのところはどうですか？ 単行本の直しは、けっこうしますか？

(X子)

でも、うちは1冊で10ページも直さないかも。

(敦弘)

作品によってはあまり直さない人もいるなあ。ほぼ、そのままとか。

直すのが好きじゃなくて、よっほどのことがない限り、それで完成！ みたいな感じでね。

(X子)

へー！

(敦弘)

『NARUTO』はたまに背景まるまる描き直し、話の流れが悪いときはコマを描き足す。
凄くこだわるなあ。雑誌とコミックス読んでる人なら気づく場面もあるはず。

(ヒカル)

なるほど。

(敦弘)

普通はコミックス直して本来、割と楽な作業じゃない？
職場によっては大変だけど。

(Q) いや～たま～に、作業多すぎて……。

「もう良くないっすか？直しするの？」みたいなことはありますけどね（笑）

(一同)

爆笑

(敦弘)

毎週の仕事に、コミックスの直しが追加されるからなあ。週によっては大変だね。
トーンの直しは相当大変だよな。

(Q)

あー、あれはもう……トーン剥がして貼り直してという作業が大変ですよ。
ちょー大変っす（笑）

(アシスタントに必要なもの)

(ヒカル)

なるほど！ 段々、制作の裏側が見えてきました。
ではアシスタントさんにあると良いスキルとかってありますか？

(敦弘)

まあ人によるけど……ご飯を作る能力と車を運転できるかどうか（笑）

(学生F)

そっちの能力ですか!!?（笑）

(敦弘)

地方作家さんは買い出しが特にいるからなあ。
都会の人はそこまでないけど、少し離れたところに住んでると車の免許はいるかな。
で、免許持っていると仕事に呼んでもらえる率も増えるよ！
順番でご飯を作る現場もけっこうあるんだよね。

(X子)

あります、あります。

(敦弘)

仕事とは直接関係ないけど、俺は両方できたから、そこは喜んでもらえた。
やっぱり、こういうスキルあると人間関係が良くなるよ！

(ヒカル)

「お前の作ったコレ、美味しいじゃん！」みたいなことですよ。

心の声

これには非常に驚く反面、すごく納得もできた。
同じ職場で長く過ごす仲間.....そりゃ料理のひとつはできた方がいい。

(敦弘)

そうそう。そのへんはできた方がいいかなっていう感じ。
漫画の技術はあって当たり前だから。
これ、新人さんに言いたいところだけど.....職場は学校じゃない。

インタビュー現場に緊張感が走る.....っ！ ごくり.....。

(敦弘)

「職場に習いに行く」って考え方を早めてほうがいいかな.....俺もそうだったんだけど（笑）
でも、最初はできないのが当たり前だから教えてもらう。
そしたら家に帰って練習する。で、次の仕事ではできるようになっておく。
これを常に思っといてほしいかなあ。
やっぱり20歳ぐらいの新人が来るときに、習いに来てるスタンスの子が多すぎる。
その意識で差が出ると思うから。休みの段階で練習する人と練習しない人では差が歴然。

(Q)

アシスタント応募のところに「勉強したいです」って書いてる人いますよね。

(敦弘)

頑張る気があるなら、ぶっちゃけ「俺はできる」みたいなスタンスでもいいよ（笑）

頑張ったら、技術は習得はできるから。次の仕事で会ったとき、できるようになってたら「あっ、こいつ練習したんだ！」って分かるから。それが大事かな。

始めは描けなくて当たり前なんだから。今、上手い人も初期は描けてないんだし。

それを頑張るって根性つければいいのか。

（ヒカル）

最初下手でも、後から追いついてこい！みたいなことですよ。

（敦弘）

そうそう。ここにいる人は皆、絵が上手いんだけど……。

たぶん学生時代、学校で1番絵がうまいってわけではなかったと思う。

学校に自分以外で、誰か絶対的に絵がうまい人がいたはずなんだ。

（X子）

うん、そうですね。

（敦弘）

でも悔しいから、俺らは練習したんだと思う。

技術は絶対に伸びるから。練習して追い抜ける。

（ヒカル）

しょ、少年漫画みたいですね！すごい……。

心の声

そういういった日々の努力を怠らなかつたからこそ

敦弘さん達はこの業界で食べていけてるんだろうなあ。

（X子）

少女漫画だとトーンの「削り」の技術大事ですよ～。

削りができると、とても喜ばれます。

（Q）

削って「ほわっ」とさせるのが、大事っすよね（笑）

（X子）

そう！ほわっとした雰囲気！少女漫画では特に。

よく聞かれたなあ「削りできる？」って。

（敦弘）

まあ基本だもんね～。削りやベタ作業は。

(Q)

少女漫画ってベタとかないから、あんまりパースのズレとか誤魔化せないときもあるじゃないですか。だから、私は少女漫画のアシスタントの方が苦手かも（笑）

(X子)

えっ、そうなの（笑）

(Q)

だって、少女漫画に迫力つけたら、怒られちゃいますもん（笑）

(ヒカル)

少女漫画って細い線が大事ですもんね。墨絵とか使えないですし。

(X子)

「キャラ線より線を太くしないでね！」みたいな指示はよくありますよ。

(Q)

ただ、キャラ線が凄く細い人の原稿だと「これ以上細くできない（焦り）」……ということもあります（笑）

(X子)

でもやっぱり、アシスタントさんに大事なものは人間性だったりするよねー。

(Q)

確かにそれはそうですよね。

(敦弘)

結局、人間性だね。週刊だと週に4回は会うもん。最初の1日目で残すかどうか決めるかな。常識があれば大丈夫だけでも。

(X子)

作家さんによっては、すぐアシスタントに来た人をクビにしちゃう人もいますかね？

(Q)

いやー、でも言いにくいですよ（笑）クビって（笑）
よほど酷くなければ、すぐクビはないとは……思います。

(敦弘)

アシスタントさん同士が仲良くなっちゃうことは多いけどね（笑）

(X子)

すぐ打ち解けちゃいますよね（笑）

(敦弘)

作家さんはクビにしようとするんだけど、アシスタント同士は仲がいいみたいなの。

(ヒカル)

でも仕方ないですよ。クビも。

(敦弘)

そればかりは作家さん次第。仕事だからね。

(Q)

アシスタントさんでも「これ直して」って言われると、嫌な顔する人いますよね。そういうところもあるんじゃないかな。クビって。

(敦弘)

基本、原稿は直すもんだしね。
ちゃんと描いてても、イメージと違うことはあるから。

(Q)

作家さんの好みとか。

(敦弘)

単純に上手い下手じゃないときもあるからね、直しは。
だから、それで凹む必要はないし。

(Q)

そこで「はい！直します！」って言って直す方がいいですよ。
多分、そっちのほう使いやすい（こいつ……有能だ！）って思ってもらえるはずです。

漫画家になろうと思ったきっかけ

皆さんはなぜ漫画業界に入ろうと思ったのですか？

(敦弘)

.....なぜ？(考え込む)

(ヒカル)

やっぱり漫画業界って.....一般の人からすると、なかなか踏みづらい業界だとは思っています。売れるか分からないですし、何かと不安定な印象があると思うので。

(X子)

漫画が好きだからかなあ。やっぱり。

(一同)

オオッ

(敦弘)

俺は絵しか描けなかったからかも.....極端なこと言うと、ちゃんと授業受けてなかった(笑)残ってたのが絵だった。珍しい動機かもしれない。サラリーマンにはなれないし。

(ヒカル)

ずっと小学生から漫画家になるんだ！というわけではなかったんですか？

(敦弘)

いや、全然ない。高校のときに、今は有名だけど『ガンガン』って雑誌が創立するって聞いたんです。で、賞金が200万だった(笑)そこで応募したら名前が載ったんだよね。

(X子)

え！初めての漫画で受賞ですか？

(敦弘)

賞は取れなかったけど努力賞みたいなところね。けれど初めて描いたものが載ったから「行けるぜ！」って思ってね。そのあと18歳ですぐアシスタントに行って、そこで勉強。「絶対に上手くなってやろう！」って負けず嫌いな性格がでたなあ。

(ヒカル)

なるほど！

いや、でも初めて描いたものが載るのは相当実力がないと無理だよなあ。

やはり凄い。

(敦弘)

だから他の作家さんと僕は違うかも、動機は。
1番になりたかった (笑)

(ヒカル)

凄いなあ。ジャンプの主人公みたいですね！

(敦弘)

Qさんはどう？

(Q)

いや、うちは家が自営業してて高校のときから、その会社の社長なろうと思ってて (笑)
最初から漫画家になろうなんて気があまり…… (笑)

(敦弘)

マジで (笑) それはそれで珍しいっ (笑)

(Q)

後継いないから、私が社長なろうとしてたら父が病気になっちゃって、今は元気なんすけど。
そしたら、まさかの社会人になってた兄が戻って会社を次ぐという事態に。
「私が社長になろうと思ってたのにい」って！

(一同)

爆笑

(Q)

そんで、やけになって漫画の専門学校行ったんです (笑) 3年くらいは遊んでばかりでした (笑)
で、賞に応募したら賞取れちゃって。
そしたらアシスタント先紹介してくれるって言うから東京行こうかなーって。

(敦弘)

案外、そんなもんだよね (笑) きっかけは。

(Q)

でも父に引き止められて、会社で働いてました。賞の3年後ぐらいにようやく東京出てきました。
その後、今に至るといふ (笑)

(敦弘)

作家さんは小学校から「漫画家なるんだ！」って思ってた人多いなあ。
岸本先生もそうだし、森田先生 (代表作『ろくでなしBLUES』) も有名な話だけど。

昔から漫画家なりたいてって人は早いよね。

(Q)

ジャンプの人はデビューが早いですよね。

(敦弘)

うん。大抵の人は20代前半にデビューかな。

あっ、でも鳥山明先生（代表作『ドラゴンボール』）はデビューは遅かった気がする。

(X子)

えっ、そうなんですか！それは親近感が（笑）

(敦弘)

でも上手すぎるからねえ、鳥山先生は。そりゃデビュー遅くても売れるよ。

(ヒカル)

やはり漫画家さんから見たら鳥山先生って……。

(X子)

神です！

(敦弘)

神だよ。世代があるけど、僕らの1個前の世代は、漫画界の神＝手塚治虫先生なんだけど……。

僕らの世代の神様は鳥山先生かも。ずっと読んでたもん。

(ヒカル)

なるほど……！やはり偉大ですね。鳥山先生って。

僕も大好きです、ドラゴンボール。

少女漫画・少年漫画の現場雰囲気

(敦弘)

あとね。面白い職場エピソードとして。

昔「先生、お腹すきました。ラーメン作ってください」っていう奴がいた(笑)

(X子)

えー!!?(笑)先生に頼んだんですか?自分でラーメンつくらずに?(笑)

(Q)

先生に言ったんっすね(笑)

(敦弘)

そういうズレた人はいるね。

(Q)

ズレてても、愛される人もいますけど、それは.....(笑)

少女漫画の現場に迫る――。

(ヒカル)

そういう常識みたいなのって必要ですよ。

そこに行くと、少女漫画の漫画制作現場ってどうですか?

(X子)

少女漫画ですか?

(ヒカル)

少女漫画の制作現場は.....「キャッキョウフフ♪」な印象があります。

お花畑みたいな柔らかいイメージ図が。

(X子)

あー、でも実際そうかもしれない(笑)

私が行ったところは「仲良くご飯食べよう」みたいな!

(敦弘)

少女漫画家さんのところは「3時のおやつタイム」あるよね(笑)

(X子)

少女漫画の現場には「3時のおやつ」はつきものですね。

えっ、少年漫画さんのところはないですか、3時のおやつ？

(敦弘)

少年漫画の職場じゃ「3時のおやつ」タイムはないなあ（笑）

男ばかりだから。

(ヒカル)

(3時のおやつを食べる男性アシスタント……確かに奇妙な光景だ)

なるほど、ティータイム的な時間があるんですね。

(敦弘)

「3時になりました♪休憩しましょ♪」っていう感じだよね。少女漫画の現場は。

(Q)

「ご飯一緒に食べましょ♪」とか少年漫画の現場じゃないなあ。

少年漫画とか青年誌の現場だと、個々でご飯食べますもん。

(X子)

あっ！個々でご飯食べるんだ。

(Q)

そうです。各々、自分の席で食べます。

(敦弘)

少年漫画の現場は、まあ個々で食べるよね。

そのまま絵を描く机で食べるよ（笑）

(X子)

えー！そうなんだ！

でも、それ休んだ気持ちにならないんじゃ……（笑）

(敦弘)

うん。ならないっちゃあ、ならない（笑）

(一同)

爆笑

(敦弘)

少女漫画家さんのところに手伝いに行った経験あるから、よく知ってるけど。

お菓子とか出てきたりね（笑）明確な休憩タイムがハッキリしてる。

(Q)

そうっす (笑)

お菓子とかスッと自然に出てくるっす (笑) 優雅なんです、少女漫画の現場は。でも、それが逆にそわそわしちゃう。「えっ！いいんすか！」って。

(敦弘)

少女漫画の現場は差し入れが初日は絶対あるよね (笑)

(X子)

必ずありますね (笑)

(敦弘)

「今日、〇〇持ってきたよー！」みたいなね。

(X子)

そうそう、ケーキとか (笑)

(敦弘)

それは女性作家さんならではだなぁ。

(ヒカル)

男性作家さんのところではないですか？そういう文化は？

(敦弘)

男性作家さんのところではないなぁ..... (笑)

あってドーナツとか買ってくるぐらい。

(ヒカル)

(確かに。男性作家さんが「ケーキ持ってきたわよ♡」って言うイメージない)

(Q)

男性漫画家やアシスタントが机囲んで、ケーキでも♪

みたいなのはちょっと..... (笑) 絵ヅラが..... (笑)

(X子)

敦弘さんにちょっと個人的な質問なんですけど、いいですか？

休憩時間って明確に決まってますか(何時から休憩スタートみたいな)？

(敦弘)

職場による。ROOKIESの時は休憩時間きちっとしてた。

(X子)

決まってないんですか！

(ヒカル)

逆に、少女漫画家さんのところは休憩の時間決まってるんですか？

(X子)

うん、私がアシスタントしていたときは食べ終わったら休憩終了みたいな。

(敦弘)

少女漫画の現場はそんな感じだよな！

(X子)

ここ1時間は絶対に休憩……ってこともないんですか？

(敦弘)

先生によっては飯時間とか風呂時間とかキッチリしてる。

5時間働いて、2時間休み、そのあと5時間また仕事っていう配分のときもある。

だから、その2時間は何に使ってもいい職場はある。

(Q)

あっ、それいいですね。

(敦弘)

俺は仕事終わりに映画とか観てたなあ。治安悪いところは夜に絡まれたりするけど(笑)

(Q)

そんなんあるんすか？

(敦弘)

僕の場合、こわいお兄さんに「てめえ、どこの組だ」っていう絡まれ方もした(笑)

(学生C)

えー！漫画家なのに(笑)

(X子)

へー！でも私は絡まれたことないですよ(笑)

(敦弘)

作家さんって同じ場所に仕事場持っていたり、何か集まるよね。

(Q)

集まりますねえ。私の近所めっちゃ多いですもん、この業界の人。

ファミレスとか行くと知り合いがいて「あれ？偶然だね」とか。

(敦弘)

打ち合わせでね(笑)

(ヒカル)

はあ～、あるんですね。ばったり会うってことも(漫画みたいだ)。

謎のベールに包まれた少女漫画家さんの仕事場風景や
漫画さんの日常が見えてきた。面白い！

思い入れの漫画

(ヒカル)

思い入れの漫画とかありますか？

X子)

私はもう……『ドラゴンボール』と『セーラーMoon』だなあ。

あー、『ダイの大冒険』も好き。『ハンターハンター』も。

(Q)

ほぼ少年漫画じゃないっすか (笑)

(X子)

そうなんですよ (笑)

(Q)

でも最近は増えましたよね。

女性でも少年漫画ばかり読んでたっていう人も。

(敦弘)

世代だよなあ。僕は初めて買ったのが『北斗の拳』だった。

(Q)

今、読んでも面白いすもん。『北斗の拳』かっこいいすもん。

(敦弘)

でも当時、気に入ってたのはジャンプ系列よりも他の雑誌かな。

上條淳士さんの漫画とか好きだし。今もやってる『銃夢』も好き。

(X子)

逆に若い子たちは何読むの？

学生達

「僕たちですか？」

学生達の漫画語りタイム始まる (その目はキラキラしていた)。

学生A

私は兄の影響で『ジョジョの奇妙な冒険』、筋肉が好きで (笑)

『キン肉マン』も好きだなあ。『バキ』とか。

(Q)

あっ、私も筋肉好き (笑)

(ヒカル)

(筋肉フェチ多い業界なのかな?)

学生B

僕は『ONEPIECE』ですねえ。漫画のきっかけが。
大好きです、本当に。

学生C

僕は漫画読んだのは遅くて.....高校3年生のとき初めて読んだんです。
『D.Gray-man』に影響受けました・

(ヒカル)

高校3年生！ 結構じゃないですか(笑)

(学生D)

俺はもう.....『NARUTO』ですよ。初版の『NARUTO』とか持ってて。

(敦弘)

おっ、『NARUTO』きた(笑)
岸本先生ね、「俺の後輩が出てこない！」って嘆いてる(絵柄的に)。

(ヒカル)

いやあ、岸本先生の絵は難しいですもんね。

(敦弘)

うん。難しすぎる(笑)なかなか真似はできない。
『NARUTO』好きな志望者は多いけど、絵が似てないんだよなあ。てか真似しにくい。

(X子)

確かに『NARUTO』の絵柄に似てる人はあまり見ないかも。
本当にデッサン力ないと描けないですもん。

(学生E)

僕は『バクマン。』かな。自分のオジさんが漫画家で重ね合わせちゃって。
最近はボンボンコミックス買い集めてます。熱さがあって好きです。

(Q)

熱さ.....で言うと、少年向けって年を重ねると描きづらくなりませんか？

(敦弘)

分かる。
小さい子向けの漫画描くとき、幼すぎる子向けに偏っても「媚びすぎてるかなあ」ってなるし。

大人すぎると少年が読まないジレンマみたいなものがあるもんなあ。

(Q)

難しい年齢層っすよねー。漫画読んでもらうの。

(敦弘)

うん。だから最強ジャンプとかで連載してる人とか凄いよ。本当に。

(学生F)

あっ、僕もきっかけは『ONEPIECE』です。それ以外だと『バキ』かなあ。

(X子)

やっぱり強いなあ。『ONEPIECE』。

(学生G)

私も『NARUTO』です。小学2年生くらいのときにアニメで観たのが始まりで。今はサンデーの『マギ』とか好きです。

(ヒカル)

なるほど！『NARUTO』強いなあ。

(学生H)

私は小学生のときは家とかに漫画なくて。

で、絵を描きたいと思ったきっかけは中学で読んだBL漫画。『純情ロマンチカ』とか。

(X子)

スタートがBL！（すごい）。

(ヒカル)

時代っすねえ（笑）

(学生H)

そうなんです。で、受けの子が泣いてるシーンみて「あっ、これ描きたい」って思いまして（笑）

(一同)

爆笑

(ヒカル)

これで皆さんの好きな漫画が見えてきましたね。

(X子)

やっぱり『ONEPIECE』と『NARUTO』が強いですね～。

子供のころは技のマネとかしました？皆さんは。

(ヒカル)

螺旋丸とか.....あとは『幽遊白書』の霊丸とかですね。再放送で観て。

(X子)

私たちのときは、やっぱり「かめはめ波」とかしたよね！

(Q)

公園とかでめっちゃしました！（笑）懐かしいなあ。

ここで一度、**15分**ぐらいのトイレ休憩に突入――。

以下、休憩中の何気ない会話

(Q)

インクとか仕事入りたてのとき、こぼしませんでしたか（笑）？

(敦弘)

えー、あんまこぼさないよ（笑）

(Q)

初期のころ、よくこぼしてましたorz

トイレ休憩終了――

ここで、敦弘さんが描いた背景画などの資料拝見

(一同)

オオーーーーッ！

美しい背景画を凝視する漫画家のたまごたち。

(Q)

うわっ、すげえ（笑）これ下書きとかしましたか？

(敦弘)

自分の原稿の時は、トレースで下書きはしないなあ

(Q)

しないんですか！

でもトレースって資料の見えないところは想像で描くしかないですよ。

(敦弘)

まあ、でもベースの形があれば、想像で描けるじゃん。

(Q)

マジっすか！

いやあ、新人はトレースでも描けない人も多いです。

(敦弘)

あー、それは建物の奥側が見えてないんだよねえ。

(Q)

そうなんです！

だから、そういうところはベタで誤魔化すみたいな人もいますね。補完ができないってことも。

(学生H)

敦弘さんの資料うますぎて、どれがトレースか分からねえ（笑）

(X子)

これ、どれくらいで書きましたか（建物の絵を見て）？

(敦弘)

2時間くらいかな。トレースしてないもん。

(X子)

これを2時間で(驚愕)。いいなあ～、凄いなあ。

(学生H)

え？下書きは普段しないんですか？トレースのとき。

(敦弘)

いや、これは自分の原稿だからさ。先生の原稿では勿論、下書きするよ。
自分の原稿かつ資料なしで描ける物だから、下書きがいらないだけだよ。

(学生D)

写真で撮ったみたいに正確な絵だなあ、凄い。

(Q)

でも実際、写真から持ってくると、印刷でブツブツでますよねえ。
写真加工だけじゃ無理ですよ。背景仕上げるの。

(敦弘)

あー、それはできないなあ。不具合が出る(笑)

(X子)

私、綺麗な丸を描くの苦手なんだよねえ(笑)

(敦弘)

曲線の練習はするよねえ。やっぱり。

(Q)

学生の皆さん、(敦弘)さんはサラッと行ってますが.....。

このレベルの背景を1、2時間で描けるのは異常ですよ。凄いスキルですからね。

(敦弘)

確かに早い子もいるけど、スローペースな子でも4時間あれば背景1つは完成させるんじゃない？

(Q)

いや.....遅い子はもう少し時間かかりますよ。

レベルの違いに愕然とする学生たち。誰かがボソッと呟く。

??? 「俺、8時間はかかるかも」

質問「オススメの画材とかってあります？」

(敦弘)

ホワイトは「ミスノン」でしょ！あと瓶のやつ！

(Q)

「ドクターマーチン」ですか？

(敦弘)

そう！それ（笑）もうね.....この2つが鉄板（笑）

(X子)

私もそうです。

(敦弘)

書き文字のホワイトなら、もう白いマーカーでもいいよ。ポスカとか。

(X子)

えっ、ポスカでいけるんですか？

(敦弘)

でもこれは技術がないとオススメしないし、先生によっては嫌うかも。

ちゃんとできれば問題ないけど。白色が薄いから、あんまりオススメはしないかも。

(Q)

違うメーカーのホワイトを一緒に使うと反発しちゃいますよね。ひび割れたり。

(敦弘)

それは気を付けないといけないよねえ。

慣れれば、凄い小さいところも楽々だけどね。

(Q)

もう敦弘さんクラスだと匠の技っすよ。

(敦弘)

僕はこの業界長いから (笑)

(Q)

あと新人の線の「入り」と「抜き」は大抵できてないですよ (笑)

(敦弘)

あるある (笑)

仕方ないんだけどね。で、プロの原稿見て、その子らはビビると！

(Q)

ジャンプ作家さんって、めっちゃ線細くないですか？

(敦弘)

細いねえ。

(ヒカル)

昔、作家さんの誰かが「黒のベタの上に、ホワイトで絵を描きたい」って言ってたんですけど。それって難しいですか？

(敦弘)

それは確かに難しい……けど (笑) その人が冗談なのか、ガチなのかは分からないけど。今の時代、普通の原稿を白黒反転させたら、ベタの上にホワイトで描いたのと同じだからなあ。コピー機とか使えば、それは簡単にできるし。

(Q)

でも、そういうパソコンやコピー機での白黒反転機能を知らない人もいますよ。業界にそこそこ長い間いる人でも。

(X子)

でも、やっぱり現場に上手い人がいると効率違いますよね。

(Q)

たま～に新人作家さんで、安い給料でアシスタント募集したら、めっちゃ上手い人が来て驚いたりします。その人のとこだけ、異様に背景が上手かったり。

(学生C)

丸ペンとかペン先って、どれぐらいの頻度で替えますか？

(敦弘)

あー、むずいな！どれくらいだろう。

線を何本か描いて「あっ、これハズレだ！」って感じたら、すぐに捨てる。値段関係なく。

でも当たりのペン先がきたら……次の週まで使うとか。

背景のときはペン先は替えない。でも集中線のときは新品のペン先にする。

(Q)

集中線の「抜き」描くときとかそうですよねえ。

(敦弘)

新品じゃないとキツイよね。

(X子)

えっ、そうなの。

私は1本で続けて描くときもあります！

(敦弘)

慣らして使うって考え方もあるしね。

キャラ絵と背景でも違うもん。替えるときもあれば、替えないときもある。

『シャーマンキング』の太い集中線は丸ペン使ったりしたよ。

(Q)

あっ、そうなんですか！

(ヒカル)

なるほど（道具の使用方法にも、かなり個人差があるんだなあ）。

(Q)

私、窓が綺麗に並んでる背景描くの苦手で……（笑）

(X子)

分かるー！（笑）

（敦弘）

『NARUTO』とかの現場にいと、たまにビルは描きたくなるけどね（笑）
普段、出てこないから。

（ヒカル）

あっ、話は変わりますけど。

漫画家志望者の中には背景練習せず、キャラ絵ばかり練習してる人いませんか？

（敦弘）

いるいる（笑）

（Q）

アシスタント応募欄に「背景画を送って」って書いてるのにキャラ絵送ってくる人とかいますよ（笑）

（ヒカル）

背景苦手なんですかね。

僕には分からない世界だから、あまり何とも言えないんですけど。

（X子）

私、あと車描くの苦手だなあ（笑）

（敦弘）

車苦手なら、車のオモチャ買って、写メ撮って描くと練習になる。

写真撮って、見ながら描くとか。

（Q）

そういえば私の現場にアシスタント仲間で一番上手い人が『NARUTO』の背景はマジで凄い！
……って言ってましたよ。

（ヒカル）

（絶賛の嵐。（敦弘）さんが人間国宝に思えてきた……っ！）

その後、20分ほど（敦弘）さんの背景画を拝見する時間――。

（敦弘）

そうだ。僕の画材持ってきたんだ。

(カバンから可愛い女性物の化粧ポーチを取り出す(敦弘)さん)。

(X子)

あら、かわいい(笑)

学生

えっ、化粧ポーチに道具入れてるんですか！

(Q)

化粧ポーチ使いますよね！

私も化粧ポーチを画材持ち運びに使ってます。ポケットが多くて、道具を持ち運びやすい。

(敦弘)

でも今更だけど、道具って関係ないかもしれないよ。

何でも使って絵を描くようにしないと。だって画材のメーカー潰れたら、ヤバイよ。

1つのメーカーのペンとかばかり使ってる時さ。

(Q)

私もお気に入りのモノが絶版になって、困ったことがあります。

(ヒカル)

なるほど。何でも使えるようになる。

そういうスキルの方が案外、大事なんですねえ(しみじみ)。

【漫画業界——その恋愛模様には迫る】

(ヒカル)

ここで話題を変えるんですが……漫画業界の恋愛ってどうですか？

漫画家さん同士で結婚とか、アシスタントさんと漫画家さんと結婚みたいなこと聞くんですけど。

(敦弘)

アシスタントさんと結婚多いけど、それは単純に、他に出会いがないからかもしれないなあ。

(Q)

職場のアシスタントさん同士が付き合うってのも、よくある話ですよ。

作品の打ち上げの時に「実は私たち、付き合っていました！」とかもよくある話です！

こっちとしては 「えー！はやく言えよ」 みたいな (笑)

(ヒカル)

少女漫画の現場もそうですか？

(X子)

少女漫画の現場は男性ほとんどいないからなあ。あんまりないかなあ。

あー、でも仕事外なら……。

(Q)

いや、でもないっす (笑)

少年漫画とかの現場だと、男っぽく女性も扱われますよ。

変に男女意識すると、気まずかったりしますし。

(敦弘)

女性として扱おうと、むしろ向こうが照れるというか (笑)

むしろ「女性扱いやめてください (照れ)」みたいな感じだよな。

(Q)

そういうもんですよ (笑)

(敦弘)

僕みたいなタイプは珍しくて、若い頃はよく合コンとか行ってたよ。

大抵、この業界の人は、「合コン来ない？」って誘うと「来ない！」って返してくる (笑)

(ヒカル)

そうなんですか！

(俗に言う草食系の波がこんなところにまで)。

(X子)

奥手な人が多いが業界ですよ。

(Q)

漫画が1番大事だからって人が多いですもん。

.....ってこのを理由にして恋愛しないってこともあるかもですけど (笑)

(ヒカル)

色々あるんですねえ。

(Q)

知り合いのU先生なんかもそうだったんです。

今の奥さんも先生も「あー、結婚できない」って感じだった。

でも出会った途端、フォーリンラブみたいな (笑) だから、まあ出会いですよ大事なのは (笑)

(敦弘)

でも、やっぱり男の子は大人しい業界だよ。皆、本当に大人しい。

たまにカップル成立しても、デートに行かないとかあるし。

僕は「デート行けっ」って言ってるんだけどなあ。恋愛は重要だよ！

(X子)

恋愛したくてもできないんですよ (笑) 女性漫画家も！

(Q)

恋愛してえけど！みたいなね (笑)

原稿だとか時間がなあ。

(X子)

でも、ぶっちゃけ男性作家さんって、可愛い子だったらアシスタントにしちゃいませんか？ (笑)

(敦弘)

しないよ！ (笑) しないしない！

少なくとも、うちの現場は週刊誌で、毎週修羅場だからそれはない (笑)

週刊は毎週、先生もアシも死にかけだよ (笑)

(ヒカル)

死にかけなんすか (笑)

心の声

たしかにネットなどで稀に「かわいいアシスタントの子は仕事につきやすい」みたいなデマをよく見る。

でも、確かに敦弘さんの言うように毎日、締切に追われる漫画.....

ましてや週刊誌という戦場じゃ、そんなわけないよなあ。

やっぱり.....漫画の現場は戦場なんだなあ。

(Q)

でも女性アシスタントにめっちゃ気を遣う作家さんいますよ。

「これ、セクハラになるのかなあ」って恐る恐る女性に接する人とか(笑)

(ヒカル)

はあ〜。職場によって様々ですねえ。

漫画の恋愛模様が見えてきました。

再び、敦弘さんの原稿を拝見タイムー。

(X子)

私もホラー描いてるんで、敦弘さんの描いたホラー関係の背景は勉強になります。

(敦弘)

僕、昔からホラー背景好きでね(笑)

(Q)

このトンネルの絵、線が凄い綺麗やべえ.....っ！

(ヒカル)

プロって凄いなあ(しみじみ)。

僕、こんなん描けないですよ。

絵の著作権などがあるから、ここに絵は載せられないが

敦弘さんの美しいイラストなどを見たい方は是非、敦弘さんの**HP**に行ってみて欲しい

。

一目で分かる上手さ。こんな風に絵を描けたら、気持ちいいだろうなあ。

「職場で音楽って流しますか？」

(敦弘)

作家さんによる。順番でアシスタントが曲を選ぶところもあるし。
先生が流すところもある。ラジオやテレビの現場もある。これはピンキリだね。

(X子)

無音（何もBGM流さない）の職場ありますか？

(Q)

無音の職場は.....行ったことありますね。

(X子)

それ気まずくない？（笑）

(ヒカル)

確かに何にも音がないと、会話も生まれにくそうだし
変に気疲れしそうな気も.....。

(Q)

気まずいかも。でも、その代わり集中はできます！たまに眠くなるけど（笑）

(敦弘)

俺は職場に慣れてるから、イヤホンつけるけどね。長い間いるから。
眠くなったら音楽ないとキツイ。

(Q)

前、違う現場に行ったとき、作家さんがスプラッター系の映画大好きで。
ご飯中にスプラッター映画が流れたりするんです（笑）

(X子)

えー！（笑）
凄い環境だね！

(敦弘)

あっ、職場に入りたてのときはイヤホンはダメ。
慣れてきたら、いいんだけど最初は指示をしっかりと聞かなきゃだし。
話しかけづらいからね。

(Q)

そういうので作家さんと馬が合わず、クビってこともありますから。
慣れてたら仕事の流れが分かってて、問題ないんですけど。

(学生H)

下書きとかは先生の指示いりますもんね。

(敦弘)

そうそう、背景指示がアバウトなアタリしかないときは確認いるし。

アイコンってものを意識して、背景を自分で考えて作家さんにオッケー貰わないとね。

(学生F)

何回くらい背景の駄目だしありますか？

(敦弘)

うーん、まあでも1、2回くらいじゃないかな。

(Q)

いや、でも職場に慣れてない人は2回じゃ済まないときありますよ。

(ヒカル)

心の声：(やっぱり漫画の現場って戦場なんだなあ！)

例えば、何ですけど.....ほしい画材とかありますか？

(X子)

私、絵の具とかコピックほしい！(笑)

色紙とかの依頼あるから、それように練習したい。

(敦弘)

有名な作家さんでも実はコピック使ってないとかあるよ。

水彩だとかアクリルだとか。

(ヒカル)

あっ、そうなんですか？

カラー原稿=コピックのイメージが強くて.....水彩の人もいるんですね。

ここで(敦弘)さんのカラー原稿登場。

こちらのイラストについては佐藤敦弘さんのHP内ギャラリーにてご覧になれます。

青空が映える、「まもるくん支援復興プロジェクト」の絵です。

<http://kirieatsu.blog.fc2.com/blog-entry-47.html>

(学生C)

うわぁ！ すごえ。(このカラー原稿の雲の部分) デジタルですか？ 写真加工ですか？

(敦弘)

いや、この雲は手で描いたよ。

(学生C)

うっそ。マジですか！(デジタルか写真加工にしか見えない！)。

(敦弘)

でもパソコンのIllustratorとかPhotoshopは使えた方がいいよ。
使えなくても触ってみなくちゃ。

(Q)

「できない」と「しない」は違いますもんね。何でもやってみなくちゃ。

(X子)

カラー原稿のときはコピー取ってから、コピック作業とかですよ。

(敦弘)

コピックだと滲むときがあるし。コピー取らないと。そこで塗ってからPhotoshopとか。
リアルにしたいときはレイヤー重ねたりね。

(学生G)

学校の先生にはよく「光」を意識して描けと言われます。

(敦弘)

そうそう「光で描く！」

名言「光で描く」――。

(Q)

名言いただきましたね(笑)

(X子)

「光を意識して描きましょう」って、よく言われますもんね。光源とも言いますけど。

(Q)

プリンターとか大事っすよね。

インクジェットじゃないと、トーンが変になったり(笑)

あー、絵って難しい(笑)

(ヒカル)

話は変わりますが、(敦弘)さんは自分の子供をどう育てたいとかありますか？

(敦弘)

うーん。まあ彼は彼で自分の道を見つけるさ(笑)

(Q)

手厳しい(笑)

(敦弘)

だって、この業界厳しいじゃない。簡単には誘えないよ。だから、学生の皆頑張ってね！

(ヒカル)

売れないと生活大変でもんね……。

(敦弘)

週刊はコンスタントにコミックス出るから、その分、給料は早く出るけどね。

(Q)

月間は生活が大変な人もいます。コミックスの発刊ペースゆっくりですし。普通に働くのが効率いいぐらいのときもありますから。

(敦弘)

もし投稿する雑誌を探するとき、よほど「この雑誌が好き」とかないなら。やっぱり最初は大手がいいよ。ジャンプとかさ。ブランドだからね。そこに掲載したことがあるだけで、待遇は変わると思う。

(Q)

原稿料も違いますからね。

(敦弘)

若いうちにチャレンジするなら、1番人気のところ行かなきゃ。

(ヒカル)

なるほど。やっぱり大手は凄いんですね。影響力が。

(敦弘)

あとね、たまにデビュー前の子がネットで作家さんの悪口言ってるのを見かける。あれはやめたほうがいい。同業者になるんだから。漫画を描いてる以上、新人の子より確実に絵も話も上手いんだし。そこは同じ漫画を描く身として敬意を払わないと。人間だから苦手な人もいるのは当然だけどね。

(ヒカル)

いつか売れたとき、出会うかもしれないですもんね。

心の声

確かにそうだ。たまにTwitterで漫画志望なのに漫画家をやたらとバカにした発言をする人がいる。多分、そういうのっていつか回りまわって自分にも誹謗中傷が来るのかもしれないなあ……。

(敦弘)

プロで続ける自体が凄いことだから。そこは敬意を表そう。

(X子)

ジャンプとかで長年続けてる人は凄いですもん。本当に。

ちょっと、ここから話が脱線——。

(ヒカル)

やっぱりジャンプの目次コメントって書くの難しいんでしょうか？
よくコメント欄書くことねえ！って作家さんのつぶやきを見ます。

(敦弘)

作家さんは皆、苦労してるよー。書く事考えるの(笑)

(Q)

ヤングジャンプさんとかは質問形式ですよ。

(X子)

あっ、それだとコメント考えるの楽かも。
お題さえあれば、答えやすいのでは？

(Q)

いや、それが意外に先生たちも苦労してまして……。
お題が「好きな武器は？」とかなんです(笑)

(一同)

爆笑「そりゃ難しいわ」

(Q)

話変わりますが、最近は作家さんでイケメンめっちゃ増えましたよね！

(X子)

増えた、増えた！

(Q)

本当にアンタ、漫画家なのか！ っていうレベルの人いますもん。

(敦弘)

あとね、読み切りとかで伝えたいテーマは3回言っても伝わらないもんだって良く言われるんだ。だから、そう思って書くといいかもよ。

(ヒカル)

それぐらい全面に伝えたいテーマを押ししていく感じで行くと良いつて感じでしょうか？

(敦弘)

うん、なかなか伝わらないから、うっとおしいぐらい押せばちょうどいいかも。少年漫画わかりやすさが大事だね。

(X子)

何事もやりすぎぐらいがいいですよ。

(Q)

また話は変わりますが、職場で先生って面白い落書きとかします？

(敦弘)

するする。俳優の似顔絵とか。
それが上手いんだよね。誰かハッキリ分かるんだよ。
誰の似顔絵かも言ってないのに、誰の顔か分かるレベルで。

(Q)

みんな、絵が好きなんすねえ

(X子)

ジャンプ作家さんて、ジャンプの漫画読んでますか？

(ヒカル)

忙しすぎて読めてるのかなあイメージはありますね。
週刊の先生たちって毎週、多忙な印象があります。

(敦弘)

うん！ けっこう皆さん、読んでると思う。
色んな人で掲載した人と会ったりするし、読んどかないとね。

そのとき、学生の誰かが呟く
「見てもらえるように頑張ろう……」

(敦弘)
あと新人の読み切りでありがちなのが、1コマで1人しか喋らないとかね。

(X子)
やっちゃいますねー。最初の時は。

(敦弘)
コマの無駄になるから、1コマでまとめたほうがいいよ。
うまい人は1コマにまとめる。

ここから先は本当に雑談タイムー
なのでインタビューはここで一旦終了になります。

雑談タイムで話したことはホンマに些細なことなので掲載いたしません(笑)
「今度、関西の遊園地行くんだけど、どう？」みたいな会話しかないの。

ザクっとした感じで終わってますが、ご了承ください(笑)
あまりに敦弘さん達と話すのが楽しすぎて

インタビューそっちのけになってしまったんです(笑)

何はともあれ、これにてインタビューは終了。
まだ幾つかインタビューで聞いた貴重なお話しなどがありますが

それはいつの日か、漫画家インタビュー総集編という本を作る際に収録したい(できればだけど)。

言い訳をさせてもらえると、初めてのインタビューかつ
録音、書き起こし、インタビュー予約まで1人で行っているの

活動のクオリティに限界が……(笑)

今後共、様々な方へインタビュー行きます。

その際は是非、ご一読を！

最後に僕のあとがきを書きますが、そちらは興味あるかただけ（できれば読んで欲しいかも）

では、インタビュー内容についてはこのへんで！

インタビューにご協力してくださった佐藤様、X子様、Q様

ひよんなことから同席することになった学生の皆さん。

素敵なインタビューになりました！

本当にありがとうございました。今後共よろしく願いいたします。

この後は、僕の「あとがき」です。

良ければ一読ください。

インタビューにたどり着くまでのいきさつを語ります

あとがき～本を作る経緯～

【この本ができるまで】

僕は関西のとある大学に通う、ごく一般的な学生だ。

でも実は学業の傍ら、すごい〇〇をして……なんていう漫画チックな展開はないです。
僕はホンマに普通の学生なんです（笑）

あとがきなんで、関西弁でお喋りさせていただきますね（笑）
インタビュー本編ではできるかぎり標準語に近づけて書いた（つもり）です。

そんな何の取り柄もない普通の学生である僕。
（強いて言うなら人よりも漫画を買う数がちょっぴり多いぐらいしか特徴ないかな）

そんな僕には中学生ぐらいからず～っと野望があったんです(^^)

それはアシスタントさんや漫画家さんの特集した本を作ること！

意外と……漫画家さんやアシスタントさんをメインに特集した雑誌ってないですよ。ね。
なくもないけど、数は圧倒的に少ない。

ずっとモヤモヤしてた（笑）
「なんで、もっと漫画家さんやアシスタントさんの特集した本ないねん！」

買った漫画雑誌は作者コメント欄までじっくり読み込む派の僕からしたら
漫画さんへのインタビューとか読みたくて仕方なかったんです。

けれど、そういう雑誌ってあんまりないじゃないですか（笑）
アシスタントさんへのインタビュー記事なんて正直、ほとんど見たことがない。

漫画家さんへのインタビュー記事はちょくちょく見かけるけど、それでも
そこまで数が多いわけじゃない。

僕としてはちょっとしたフラストレーションが溜まっていたわけなんです（笑）

漫画家さんやアシスタントさんのインタビュー記事や雑誌読みたいのに
一向にそういう雑誌ない！畜生！

こんなかんじだったわけです（笑）

けれど、そのときは中学3年生だったから案外、楽観的に

「まあそのうち、漫画家やアシスタントばかり特集した雑誌出るやろ」と考えていた。

しかし、それから3年近く経って僕は大学に入っても

漫画家特集記事はあっても、アシスタント特集記事も雑誌も一向に現れなかった。

そのとき僕のフラストレーションは限界に達し

「ほんなら、自分でそういう雑誌作ったらァ!!!」

.....そう思い、僕は地道に活動した。

まずは学内誌を作る部活に入って、インタビューの雰囲気などを学び

お寺のガイドを経験して人前でもフランクに話すことができるスキルを身につけた（たぶん）

そんなこんなでインタビューの下準備に2年もかかってしまった（笑）

慎重すぎる性格がアダになった感はある。

もう少し早めに動けばよかったとも思っているが、その代わり人前に出てもある程度は失礼ではない態度を取れる人間になったように思う。

そして、2013年12月某日.....

僕は佐藤敦弘さんのHPからインタビュー依頼のメールを送った。

正直、ダメ元だった（笑）過去に部活でインタビュー依頼をしても、断られるケースは度々あったし

なにせ今回は僕ひとりで本を作るわけだから、向こうからすれば得体の知れない存在である僕のインタビューを受けるなんて、なかなか承諾し難いことだ。

けれど、佐藤さんから頂いた返事はまさかの「いいよー!」だった。

その瞬間、喜びのあまり僕が家の中を駆け回ったのは言うまでもない。

「いいんすか! マジっすか!」

「多分、断られるだろうなー」と思っていただけに、これは嬉しかった!

「夢って叶うもんだなあ～。すごく嬉しい」

そんな小学2年生ぐらいの感想しかでないくらいに嬉しかったです（笑）

そのあとは、ほとんどインタビューで書いた通り。東京まで行って、インタビュー。楽しく喋って、楽しくご飯を食べて帰った。ちょっとした旅行だったかもしれない（笑）

これがこの本を作るまでの経緯だ。ただの学生だった僕には、この上ない刺激的な体験だった。

改めて今回のインタビューをお受けしてくれた

佐藤敦弘さん、X子さん、Qさん

一緒に同席した漫画家志望の学生さん達。

この経験はきっと一生の宝物です。本当にありがとうございました！

これからも、漫画家さんやアシスタントさんへのインタビューは継続したい。

僕の連絡先

ツイッター @fasdrew

よろしければフォローなどお願いいたします。

2013年1月27日 バイト終わりでへとへとなヒカルより